

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-074408

(43)Date of publication of application : 18.03.1997

(51)Int.Cl.

H04L 9/08

G09C 1/00

G09C 1/00

H04L 9/32

(21)Application number : 07-226267

(71)Applicant : NIPPON TELEGR &amp; TELEPH CORP

&lt;NTT&gt;

N T T ELECTRON TECHNOL KK

(22)Date of filing : 04.09.1995

(72)Inventor : TANAKA KIYOTO

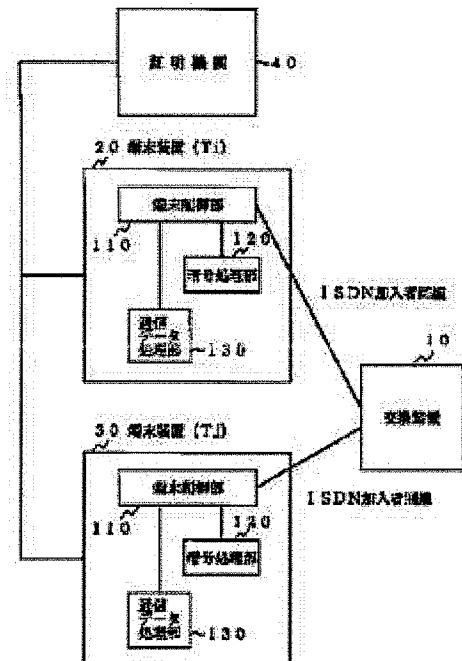
AOKI KATSUHIKO

## (54) SECURITY COMMUNICATION METHOD

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To eliminate an overhead for a verification procedure between terminal equipments and to prevent contradiction from being incurred between communication channels for ciphering/decoding communication data.

**SOLUTION:** Terminal equipments 20, 30 hold a certificate signed digitally by a private key of a verification agency 40 with respect to an identification name of the terminal equipments and digital information of a public key as information to verify it that the terminal equipments are correct. In the case of security communication by the terminal equipments 20, 30, at first a channel to verify the terminal equipments with each other is open and each certificate is exchanged mutually to confirm the correctness of the opposite party. Then a communication channel for ciphering/decoding of the communication data is open for a higher layer of the communication channel opened for verification and a secret key of the correct key ciphering system is used in common by using the open public key ciphering system.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-74408

(43) 公開日 平成9年(1997)3月18日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 L 9/08			H 0 4 L 9/00	6 0 1 C
G 0 9 C 1/00	6 3 0	7259-5 J	G 0 9 C 1/00	6 3 0 C
		7259-5 J		6 3 0 E
	6 4 0	7259-5 J		6 4 0 A
		7259-5 J		6 4 0 E

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平7-226267

(22) 出願日 平成7年(1995)9月4日

(71) 出願人 000004226

日本電信電話株式会社

東京都新宿区西新宿三丁目19番2号

(71) 出願人 591230295

エヌティティエレクトロニクステクノロジー株式会社

東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目14番5号

(72) 発明者 田中 清人

東京都千代田区内幸町1丁目1番6号 日

本電信電話株式会社内

(74) 代理人 弁理士 鈴木 誠

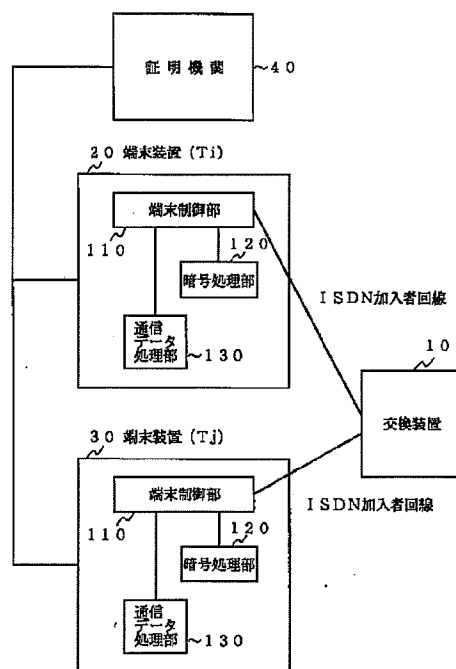
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 秘話通信方法

(57) 【要約】

【課題】 端末相互の認証手順のオーバーヘッドをなくし、また、通信データの暗号化／復号のための通信路相互で矛盾を生じないようにする。

【解決手段】 端末装置20、30は、当該端末自身が正しいことを証明するための情報として、端末の識別名と端末のパブリック鍵のデジタル情報に対して証明機関40のプライベート鍵によりデジタル署名された証明書を持保持する。端末装置20、30が秘話通信を行う場合、まず、相互に認証を行うための通信路を開設し、証明書を相互に交換して相手が正しいと確認する。次に、上記認証のために開設した通信路の上位に通信データの暗号化／復号を行うための通信路を開設し、秘密鍵暗号方式の秘密鍵を公開鍵暗号方式を使用して共有する。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 各端末装置は、端末装置自身が正しいことを証明するための情報として、端末装置の識別名と端末装置の公開鍵暗号方式におけるパブリック鍵とで構成されたデジタル情報に対して証明機関の公開鍵暗号方式のプライベート鍵によりデジタル署名された証明書を保持し、端末装置相互が秘話通信を行うとき、まず端末装置が保持する前記証明書を相互に交換して相手が正しいと認証し、次に通信データの内容の暗号化／復号に

使用するための秘密鍵暗号方式における秘密鍵を公開鍵暗号方式を使用して共有し、該相互に共有した通信用の秘密鍵を使用して秘話通信を行う方法において、端末装置Tiと端末装置Tjが秘話通信を行うとき、まず、端末装置Ti、Tjは相互に認証を行うための通信路を開設し、自分を証明する証明書Ci、Cjを互いに交換し検証することで、相手が正しいことを確認するとともに認証のために開設した通信路が正しいことを確認し、次に、認証のために開設した通信路の上位に通信データの内容の暗号化／復号を行うための通信路を開設し、通信データの内容の暗号化／復号のための秘密鍵を共有する

ために、端末装置Tiは乱数Rkviを発生し、該乱数Rkviを端末装置Tjの認証時に取得した証明書Cjから取り出した端末装置Tjのパブリック鍵を使用して暗号化するとともに、該暗号化データに対して端末装置Tiのプライベート鍵で暗号化することでデジタル署名を行い、これら暗号化データとデジタル署名データのデジタル情報を端末装置Tjに送信し、前記デジタル情報を受信した端末装置Tjは受信したデジタル情報中の端末装置Tjのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkviのデジタルデータを端末装置Tjのプライベート鍵により復号することにより乱数Rkviの値を得るとともに、デジタル署名データを端末装置Tiの認証時に取得した証明書Ciから取り出した端末装置Tiのパブリック鍵を使用して復号し、該復号したデジタルデータと前記端末装置Tjのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkviのデジタルデータを比較し、等しければ正しく端末装置Tiより送信された秘密鍵情報であると確認し、

次に、端末装置Tjは乱数Rkvjを生成し、該生成した乱数Rkvjと前記復号した乱数Rkviとの排他的論和結果を秘密鍵暗号方式で通信するための秘密鍵とその他の必要なデータとし、さらに前記乱数Rkvjを前記端末装置Tiの認証時に取得した証明書Ciから取り出した端末装置Tiのパブリック鍵を使用して暗号化するとともに、該暗号化データに対して端末装置Tjのプライベート鍵で暗号化することでデジタル署名を行い、これら暗号化データとデジタル署名データデジタル情報を端末装置Tiに送信し、

前記デジタル情報を受信した端末装置Tiは、受信したデジタル情報中の端末装置Tiのパブリック鍵によ

2

り暗号化された乱数Rkvjのデジタルデータを端末装置Tiのプライベート鍵により復号することにより乱数Rkvjの値を得るとともに、デジタル署名データを端末装置Tjの認証時に取得した証明書Cjから取り出した端末装置Tjのパブリック鍵を使用して復号し、該復号したデジタルデータと前記端末装置Tjのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkvjのデジタルデータを比較し、等しければ正しく端末装置Tjより送信された鍵情報であると確認し、

次に、端末装置Tiは前記生成した乱数Rkviと前記復号した乱数Rkvjとの排他的論理和結果を秘密鍵暗号方式で通信するための秘密鍵とその他の必要なデータとし、端末装置Tiと端末装置Tjは、前記共有した秘密鍵と他のデータを使用して秘密鍵暗号方式で通信内容の暗号化ならびに復号を行うことを特徴とする秘話通信方法。

【請求項2】 請求項1記載の秘話通信方法において、通信データの内容の暗号化／復号のための通信路は、認証のために開設した通信路の上位に複数本開設可能し、各通信データの内容の暗号化／復号の通信路で秘話通信を行うときは、各々の通信データの内容の暗号化／復号のための通信路で秘密鍵を共有することで、一つの認証のための通信路上で、各々異なる秘密鍵を使用して複数の通信路で秘話通信を行うことを特徴とする秘話通信方法。

【請求項3】 請求項2記載の秘話通信方法において、通信データの内容の暗号化／復号のための通信路が、認証のための通信路の上位に少なくともひとつ開設してあれば、該認証のための通信路上に新しい通信データの内容の暗号化／復号のための通信路を開設するとき、秘話通信を行うために新たに必要な秘密鍵と他のデータを共有するために使用する証明書の情報は、既に開設している認証のための通信路の証明書の情報を使用することを特徴とする秘話通信方法。

【請求項4】 請求項3記載の秘話通信方法において、秘話通信を終了するとき、認証のための通信路上に開設された全ての通信データの内容の暗号化／復号のための通信路が閉設されたときに、該認証のための通信路上の情報を閉設することを特徴とする秘話通信方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、デジタル伝送路を使用して端末装置間で秘話通信を行う方法に関し、特に、デジタル伝送路を使用して、データ情報を転送する場合にあたって好適な相互の認証方法ならびに通信内容の暗号化／復に使用する鍵ならびにその他の秘密情報を共有する方法に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】デジタル通信のセキュリティ対策として秘話通信がある。秘話通信では、送信者と受信者が互いに相手が正しいと確認した上で秘話通信を行う。

【0003】秘話通信を行うための暗号方式は、大きく分けて、秘密鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の二つがある。公開鍵暗号方式は、暗号化鍵と復号鍵が同じで、この同じ秘密の鍵（以後秘密鍵と呼ぶ）を送信者と受信者が共有して相互に暗号化と復号を行う（詳細は、文献[1]：「現代暗号理論：池野信一、小山謙二著、電子情報通信学会、PP24～40、1988」を参照）。一方、公開鍵暗号方式は、暗号化鍵と復号鍵が異なり、復号鍵だけを秘密（以下プライベート鍵と呼ぶ）にするが、暗号化鍵を公開（以下パブリック鍵と呼ぶ）にする方式である（詳細は文献[1]：「現代暗号理論：池野信一、小山謙二著、電子情報通信学会、PP77～104、1988」を参照）。

【0004】公開鍵暗号方式は、パブリック鍵を知っている誰もが秘話通信の送信者になれる点や、プライベート鍵を知っているただ一人が署名できる点で秘密鍵暗号方式より優れているが、計算量が膨大なため符号化速度が遅いという欠点がある。このため現状では、送受信者相互の認証と通信データの内容の暗号化／復号の双方に秘密鍵暗号方式を使用するか（例えば、文献[2]：

「山口他、LAN暗号通信の実装と証価、電子情報通信学会技術研究報告、OSF93-38、1993」を参照）、あるいは送受信者相互の認証には公開鍵暗号方式を使用し、通信データの内容の暗号化／復号には秘密鍵暗号方式を使用する（例えば、文献[3]：「J. Lin n. RFC1421: Privacy Enhancement for Internet ElectronicMail: Part1: Message Encryption and Authentication Proccedures. February 1993.」を参照）方法が使用されている。ここで、秘密鍵暗号方式ならびに公開鍵暗号方式による端末相互の認証方法については、例えば、文献[4]（「Infomation technology-Security techniques-Entity authentication-Part 2: Mechanisms using symetric encipherment algorithms」ISO/IEC 9798-2:1994）や文献[5]：（「Infomation technology-Security techniques-Entity authentication-Part 2: Entity authentication using a public key algorithms」ISO/IEC 9798-3:1994）に詳述されている。これらの端末相互の認証を使用する従来方法では、認証後に秘話通信を行う場合、認証に使用した通信路そのものを通信データの内容の暗号化／復号に使用する。

#### 【0005】

【発明が解決しようとする課題】上述の従来技術においては、既に秘話通信を行っている端末相互で、近たな論理パスを生成して秘話通信を行うには再度端末相互の認証を行わなければならない、オーバヘッドが大きいという欠点がある。また、端末相互の認証に証明書を使用する場合、既に端末相互に認証ならびに秘密鍵の共有を終了し通信用のパスを確立して秘話通信を行っている時に、

新たにもう一つの通信用のパスを確立して秘話通信を行うには、次のような問題が生じる。すなわち、既設の秘話通信のための通信パスの確立のために互いに証明書の交換を行い認証を行ったときは相手の証明書の期限はまだ切れていなかったが、新たに開設する秘話通信のための通信用のパスのために相互に認証を行った時は、相手の証明書の期限が切れており、同じ端末同士で秘話通信を行うにもかかわらず、既設の通信用のパスは期限内であるが、新たに開設する通信用のパスは期限が切れているという状態不一致の問題が生じる。

【0006】本発明は、このような課題を解決しようとするものであり、その目的は、ディジタル伝送路を使用し、データ情報を転送する場合にあたって好適な秘話通信の認証と鍵共有の方法を提供するものである。

#### 【0007】

【課題を解決するための手段】本発明では、各端末装置は、端末装置自身が正しいことを証明するための情報として、端末の識別名と端末の公開鍵暗号方式におけるパブリック鍵とで構成されたディジタル情報に対して証明機関の公開鍵暗号方式のプライベート鍵によりディジタル署名された証明書を保持する。この証明書を保持する端末装置相互が秘話通信を行うとき、各端末装置は、以下のようにして、まず、端末装置が保持する証明書を相互に交換して相手が正しいと認証し、次に、通信データの内容の暗号化／復号に使用するための秘密鍵暗号方式における秘密鍵を公開鍵暗号方式を使用して共有し、この相互に共有した通信用の秘密鍵を使用して秘話通信を行う。

【0008】端末装置Tiと端末装置Tjが秘話通信を行うとする。まず、端末装置Ti、Tjは相互に認証を行うための通信路を開設し、自分を証明する証明書Ci、Cjを互いに交換し検証することで、相手が正しいことを確認するとともに認証のために開設した通信路が正しいことを確認する。

【0009】次に、認証のために開設した通信路の上位に通信データの内容の暗号化／復号を行うための通信路を開設し、通信データの内容の暗号化／復号のための秘密鍵を共有するために、端末装置Tiは乱数Rkviを発生し、該乱数Rkviを端末装置Tjの認証時に取得した証明書Cjから取り出した端末装置Tjのパブリック鍵を使用して暗号化するとともに、該暗号化データまたは該暗号化データをハッシュしたデータに対して端末装置Tiのプライベート鍵で暗号化することでディジタル署名を行い、これら暗号化データとディジタル署名データのディジタル情報を端末装置Tjに送信する。

【0010】このディジタル情報を受信した端末装置Tjは、受信したディジタル情報中の端末装置Tjのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkviのディジタルデータを端末装置Tjのプライベート鍵により復号することにより乱数Rkviの値を得るとともに、ディジタル署名

データを端末装置Tiの認証時に取得した証明書Ciから取り出した端末装置Tiのパブリック鍵を使用して復号し、該復号したデジタルデータと前記端末装置Tjのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkviのデジタルデータを比較し、等しければ正しく端末装置Tiより送信された秘密鍵情報であると確認する。次に、端末装置Tjは乱数Rkvjを生成し、この乱数Rkvjと復号した乱数Rkviとで排他的論和をとり、該排他的論和結果を秘密鍵暗号方式で通信するための秘密鍵とその他の必要なデータ（初期値）とする。さらに、端末装置Tjは、該乱数Rkvjを端末Tiの認証時に取得した証明書から取り出した端末Tiのパブリック鍵を使用して暗号化するとともに、該暗号化データまたは該暗号化データをハッシュしたデータに対して端末装置Tjのプライベート鍵で暗号化することでデジタル署名を行い、これら暗号化データとデジタル署名データのデジタル情報を端末装置Tiに送信する。

【0011】このデジタル情報を受信した端末装置Tiは受信したデジタル情報中の端末装置Tiのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkvjのデジタルデータを端末装置Tiのプライベート鍵により復号することにより乱数Rkvjの値を得るとともに、デジタル署名データを端末装置Tjの認証時に取得した証明書Cjから取り出した端末装置Tjのパブリック鍵を使用して復号し、該復号したデジタルデータと前記端末装置Tjのパブリック鍵により暗号化された乱数Rkvjのデジタルデータを比較し、等しければ正しく端末装置Tjより送信された秘密鍵情報であると確認する。次に、端末装置Tiは、先に生成した乱数Rkviと、乱数Rkvjとで排他的論和をとり、該排他的論和結果を秘密鍵暗号方式で通信するための秘密鍵とその他の必要なデータ（初期値）とする。

【0012】これにより、端末装置Tiと端末装置Tjは、互いに等しい通信データの内容の暗号化に使用する秘密鍵とその他のデータ（初期値）を共有し、これらの共有した秘密鍵と他のデータを使用して秘密鍵暗号方式で通信内容の暗号化ならびに復号化を行う。

【0013】また、本発明では、通信データの内容の暗号化／復号の通信路は、認証のために開設した通信路の上位に複数本開設可能し、各通信データの内容の暗号化／復号の通信路で秘話通信を行うときは、各々の通信データの内容の暗号化／復号のための通信路で秘密鍵を共有することで、一つの認証のための通信路上で、各々異なる秘密鍵を使用して複数の通信路で秘話通信が可能とする。

【0014】さらに、本発明では、通信データの内容の暗号化／復号のための通信路が、認証のための通信路の上位に少なくともひとつ開設してあれば、該認証のための通信路上に新しい通信データの内容の暗号化／復号のための通信路を開設するとき、秘話通信を行うために新た

に必要な秘密鍵と他のデータを共有するために使用する証明書の情報は、既に開設している認証路の証明書の情報を使用する。

【0015】さらに、本発明では、秘話通信を終了するときは、認証のための通信路上に開設された全ての通信データの内容の暗号化／復号のための通信路が開設されたときに、該認証のための通信路上の情報を開設する。

【0016】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の一実施例を説明する。なお、本実施例の説明ではデジタル伝送路としてISDNを用いるが、勿論、ISDN以外のデジタル伝送路でも適用可能である。

【0017】図1は、本発明の秘話通信方法が適用される通信システムの一実施例を示すブロック図である。図1において、交換装置10は複数のISDN基本インタフェース加入者回線を収容している。端末装置20、30は該ISDN基本インタフェース加入者回線に接続されている。各端末装置は、ISDN加入者回線のレイヤ1～レイヤ3制御およびレイヤ4から上の上位レイヤのネットワーク制御を行う端末制御部110、端末相互の認証処理や鍵共有処理を行う暗号処理部120、共有した秘密鍵を使用して秘話通信を行う通信データ処理部130から構成されている。端末装置20、30は証明機関40とも接続され、端末の識別名と端末のパブリック鍵で構成されたデジタル情報に対し、当該証明機関40のプライベート鍵によりデジタル署名された証明書の発行を受ける。なお、利用者が直接、証明機関40におもむいて証明書の発行を受ける場合には、端末装置20、30と証明機関40間の接続を省略できる。以下では、端末装置20をTi、端末装置30をTjとする。

【0018】図2に、本実施例の説明で使用する記号の一例を示す。なお、端末Tjに関しては、図2の記号中の「i」を「j」に置き替えばよい。

【0019】図3は、証明機関40が作成する証明書の一例である。これは端末Tiの証明書Ciの例を示したもので、証明書の長さCDLと、端末装置の識別名Tiと、端末Tiの公開鍵暗号方式におけるパブリック鍵Pkiと、該TiとPkiを結合した情報に対して一方方向性のデータ圧縮関数Hでハッシュし、その値を当該証明機関40の公開鍵暗号方式のプライベート鍵Scaで暗号化した暗号文E[Sca](H(Ti||Pki))、すなわち、デジタル署名されたデータで構成される。ここで、公開鍵暗号方式としては、代表的なものにRSA暗号方式（詳細は、文献[6]：「PKCS#1 RSA Encryption Standard, Version1.5, RSA DataSecurity Inc. 1993」を参照）があり、秘密鍵暗号方式としては、DES方式（詳細は、文献[7]：「FIPS Publication 46-1: Data Encryption Standard, National Bureau of Standards. 1988」を参照）がある。また、ハッシュ関数としては、MD2（詳細

は、文献[8]:「RFC1319:The MD2 Message-Digest Algorithm., B. Kaliski., 1992」を参照)やMDS5(詳細は、文献[9]:「RFC1321:The MD5 Message-Digest Algorithm., B. Kaliski., 1992」を参照)などがある。なお、本発明は、他の公開鍵暗号方式、秘密鍵暗号方式、ハッシュ関数に適用可能なことはもちろんである。

【0020】端末設置時に、端末装置20(端末Ti)は、当該端末のパブリック鍵Pkiとプライベート鍵Skiを生成するとともに、該端末の識別名Tiとパブリック鍵Pkiを証明機関40に送って証明書Ciの発行の受け、該端末のプライベート鍵Ski、図2に示す証明書Ci、証明機関40のパブリック鍵Pcaを暗号処理部120に設定する。同様に、端末装置30(端末Tj)でも、該端末のプライベート鍵Skj、証明書Cj、証明機関40のパブリック鍵Pcaを暗号処理部120に設定する。

【0021】端末装置20(Ti)と端末装置30(Tj)が秘話通信を行うとき、まず、各端末が保持する証明書Ci、Cjを相互に交換して相手が正しいことを認証し、次に、通信データの内容の暗号化/復号に使用するための秘話鍵暗号方式における秘密鍵を公開鍵暗号方式を使用して共有し、この相互に共有した秘話鍵を使用して秘話通信を行う。

【0022】初めに、図4を用いて端末相互の認証手順を説明する。この段階ではすでに、端末Tiは当該端末のプライベート鍵Ski、証明書Ci、証明機関のパブリック鍵Pcaを保持し、端末Tjでも当該端末のSkj、Cjおよび証明機関のPcaを保持している。

【0023】① 端末Tiは乱数Riを生成し、端末TjにCi||Riを送信する。

② 端末Tjは、受信した証明書Ciを以下の通りに検査し、正しいことを確かめる。

a. 受信したCi中のTi, PkjからH(Ti||Pki)を計算する。

b. 受信したCi中のデジタル署名データからE[Pca](E[Sca]H(Ti||Pki))を計算し、H(Ti||Pki)を得る。

c. 上記aとbの計算値が等しいか検査し、等しいなら、受信した証明書Ciは正しいと確認する。そして、正しいと確認されたなら、受信した証明書Ciを保持する。

【0024】③ 端末Tjは乱数Rjを生成し、端末TiにCj||Rjを送信する。

④ 端末Tiは、受信した証明書Cjを以下の通りに検査して、正しいことを確かめる。

a. 受信したCj中のTj, PkjからH(Tj||Pkj)を計算する。

b. 受信したCj中のデジタル署名データからE[Pca](E[Sca]H(Tj||Pkj))を計算し、H(Tj||Pkj)を

得る。

c. 上記aとbの計算値が等しいか検査し、等しいなら、受信した証明書Cjは正しいと確認する。そして、正しいと確認されたら、受信した証明書Cjを保持する。

【0025】⑤ 端末Tjは端末Tiに、Rj, Ri, Tiの平文データとその暗号化データを結合したRj||Ri||Ti||E[Skj](Rj||Ri||Ti)を送信する。

⑥ 端末Tiは、受信した情報を以下の通りに検査し、端末Tjが正しいことを確かめる。

a. 受信した暗号化データからE[Pkj](E[Skj](Rj||Ri||Ti))を計算し、Rj||Ri||Tiを得る。

b. 受信した平文データのRj||Ri||Tiと、上記aで得たRj||Ri||Tiとを比較する。等しければ、端末Tjが正しいと確認する。

【0026】⑦ 端末Tiは端末Tjに、Ri, Rj, Tjの平文データとその暗号化データを結合したRi||Rj||Tj||E[Ski](Ri||Rj||Tj)を送信する。

⑧ 端末Tjは、受信した情報を以下の通りに検査し、端末Tiが正しいことを確かめる。

a. 受信した暗号化データからE[Pki](E[Ski](Ri||Rj||Tj))を計算し、Ri||Rj||Tjを得る。

b. 受信した平文データ中のRi||Rj||Tjと、上記aで得たRi||Rj||Tjとを比較する。等しければ、端末Tiが正しいと確認する。

【0027】次に、図5を用いて、通信データの内容の暗号化/復号のために使用する秘密鍵とその他の必要データ(初期値)の共有手順について説明する。この段階では、端末Tiは当該端末の証明書Ciに加えて相手端末Tjの証明書Cjを保持し、同様に端末Tjでも当該端末のCjに加えて相手端末TiのCjを保持している。

【0028】① 端末Tiは乱数Rkviを生成し、端末TjにRkviの暗号化データとそのデジタル署名データを結合したE[Pkj](Rkvi)||E[Ski](H(E[Pkj](Rkvi)))を送信する。

② 端末Tjは、受信した情報を以下の通りに検査して、情報が正しいことを確かめ、データ暗号化鍵と初期値を生成する。

a. 受信したデジタル署名データからE[Pki](E[Ski](H(E[Pkj](Rkvi))))を計算し、H(E[Pkj](Rkvi)))を得る。

b. 受信した暗号化データからH(E[Pkj](Rkvi))を計算し、上記aで得たH(E[Pkj](Rkvi))と比較し、等しければ、メッセージが改ざんされていないと確認する。

c. E[Skj](E[Pkj](Rkvi))を計算し、Rkviを得る。

d. 乱数Rkvjを生成する。そして、上記cで復号した乱数Rkviと生成した乱数Rkvjとで排他的論理和を取り、以下の通りにデータ暗号化/復号鍵DEKs、初期

値  $I V_s$  を生成する。

$DEK_s$  :  $Rkvi$  と  $Rkvj$  の排他的論理和データの上位 8 バイト

$I V_s$  :  $Rkvi$  と  $Rkvj$  の排他的論理和データの低位 8 バイト

e.  $DEK_s$  と  $I V_s$  を通信データ処理部 130 へ設定する。

【0029】③ 端末  $T_j$  は端末  $T_i$  に、 $Rkvj$  の暗号化データとそのデジタル署名データを結合した  $E[Pki](Rkvj) \parallel E[Skj](H(E[Pki](Rkvj)))$  を送信する。

④ 端末  $T_i$  は、受信した情報を以下の通りに検査し、情報が正しいことを確かめ、データ暗号化鍵と初期値を生成する。

a. 受信したデジタル署名データから  $E[Pki](E[Skj](H(E[Pki](Rkvj))))$  を計算し、 $H(E[Pki](Rkvj))$  を得る。

b. 受信した暗号化データから  $H(E[Pki](Rkvj))$  を計算し、上記 a で復号した  $H(E[Pki](Rkvj))$  と比較し、等しければ、メッセージが改ざんされていないと確認する。

c.  $E[Skj](E[Pki](Rkvj))$  を計算し、 $Rkvj$  を得る。

d. 上記 c で復号した乱数  $Rkvj$  と先に生成した乱数  $Rkvi$  とで排他的論理和を取り、以下の通りにデータ暗号化／復号鍵  $DEK_s$ 、初期値  $I V_s$  を生成する。

$DEK_s$  :  $Rkvi$  と  $Rkvj$  の排他的論理和データの上位 8 バイト

$I V_s$  :  $Rkvi$  と  $Rkvj$  の排他的論理和データの低位 8 バイト

e.  $DEK_s$  と  $I V_s$  を通信データ処理部 130 へ設定する。

【0030】以後、端末  $T_i$  と端末  $T_j$  は、共有した暗号化／復号のための秘密鍵  $DEK_s$  とその初期値  $I V_s$  を使用して通信データの暗号化／復号を行う。例えば、端末  $T_i$  が送信側、端末  $T_j$  が受信側の場合、端末  $T_i$  は平文（通信データ） $p$  を鍵  $DEK_s$ 、初期値  $I V_s$  で秘密鍵暗号方式により暗号化した暗号文  $e[DEK_s, I V_s](p)$  を生成して送信し、端末  $T_j$  は、受信した暗号文について同じく  $DEK_s$ 、 $I V_s$  で秘密鍵暗号方式により  $d[DEK_s, I V_s](e[DEK_s, I V_s](p))$  を計算して、平文  $p$  を復号する。

【0031】次に、図 4 の認証のための通信路ならびに図 5 の通信路が既に確立し、端末  $T_i$  と端末  $T_j$  の間で通信データの暗号化／復号を行っているときに、同じ端末間で新たな秘話通信要求が発生した場合の動作について、図 6 により説明する。端末  $T_i$  ならびに  $T_j$  は、互いに認証した相手端末の証明書  $C_j$  あるいは  $C_i$ （以下では、 $C$  を総称する）に加えて、認証のための通信路がどの端末と確立されているかを示すカウンタフラグ  $Flg$

$j$  あるいは  $Figi$ （以下では、 $Flg$  で総称する）を保持している。初期状態ではカウンタフラグ  $Flg$ 、証明書  $C$  ともゼロである。図 6 では、 $Flg$  と  $C$  が各々 1 個しか示されていないが、もちろん複数の端末と同時に秘話通信を行うために、複数のカウンタフラグ  $Flg$  と証明書  $C$  を保有することが可能である。

【0032】秘話通信の要求が発生したとき、端末はカウンタフラグ  $Flg$  がゼロ以上かどうか、ゼロ以上ならどの端末であるかを示す情報を含む証明書  $C$  を検査することにより、端末の動作を決定する。すなわち、新たに秘話通信の要求が発生としたとき、 $Flg$  を検査し、ゼロ以上かどうか調べる。 $Flg$  がひとつもゼロ以上でないなら、または、 $Flg$  がゼロ以上でも、保有している証明書  $C$  を検査した結果、秘話通信を行う相手の証明書  $C$  を保持していないなら、新しい端末との秘話通信要求とし、前記の図 4 と図 5 の手順を実行して端末相互の認証と通信データの暗号化／復号を行うための鍵を共有し、秘話通信を行う。図 6 (a) はこれを示したもので、便宜上、ここでは端末相互の認証手順のみを示している。このとき、 $Flg$  の内容は 1 加算するとともに、獲得した対応する端末の証明書  $C$  を保持機構に設定する。

【0033】一方、新たに秘話通信の要求が発生したとき、検査した  $Flg$  がゼロ以上でかつ、秘話通信を行う相手の証明書  $C$  を既に保持しているなら、対応する  $Flg$  の内容を 1 加算するとともに、図 3 で確立した認証のための通信路上で、直ちに図 5 の鍵共有手順を実行し、新たな通信データの暗号化／復号のための通信路を確立するとともに、この通信路上で秘話通信を行うための鍵を共有する。このとき、相手端末の証明書  $C$  は、既に保持している証明書を使用し、端末相互の新たな証明書はの交換は実行しない。図 6 (b) はこれを示している。

【0034】このようにすることにより、端末相互で 1 本の物理チャネル上に複数の論理パスを開設して秘話通信を行う場合においても、端末相互の認証は最初の 1 回で終了するとともに、論理パスごとに異なる鍵で通信データの暗号化／復号を実行することができる。

【0035】次に、秘話通信を終了する場合について説明する。秘話通信を終了するときは、その要求にもとづき、まず最初に該通信データの暗号化／復号のための通信路を開設する。次に、図 6 に示したカウンタフラグ  $Flg$  において、開設した相手端末に対応する  $Flg$  の内容を 1 減算する。減算した結果がゼロ以上なら、図 4 で確立した認証のための通信路はそのままとし、その秘話通信終了のための要求動作を終了する。もし  $Flg$  の内容を 1 減算した結果がゼロなら、獲得している対応する端末の証明書  $C$  の内容を初期化（クリア）するとともに、相手端末に対応する開設している図 4 の認証のための通信路を開設することで、その秘話通信終了のための要求動作を終了する。

【0036】このようにすることにより、図 4 の認証の

11

ための通信路の上に複数の通信データの内容の暗号化／復号のための通信路が開設されているときは、認証のための通信路をそのままにできるので、上記の、図4の認証のための通信路ならびに図5の通信路が既に確立し、通信データの内容の暗号化／復号を行っているときに、同じ端末間で新たな秘話通信要求が発生した場合の動作が実行できる。

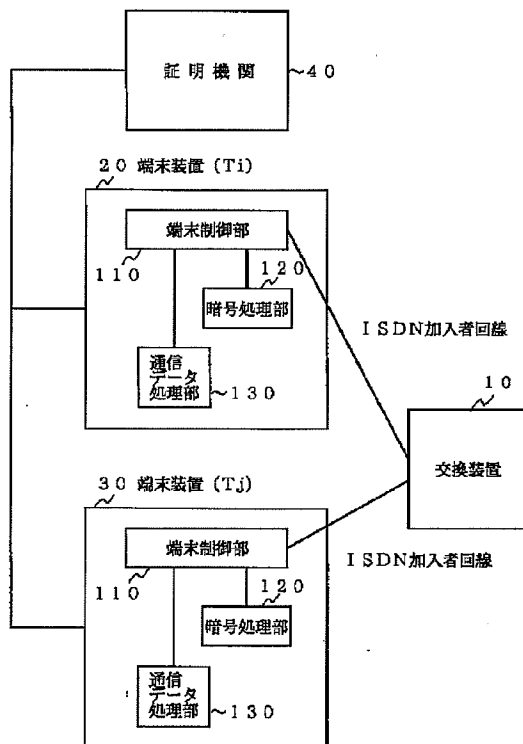
【0037】

【発明の効果】以上のように、本発明の認証および鍵共有方法によれば、既に秘話通信を行っている端末相互で、新たな論理パスを生成して秘話通信を行う特には、再度端末相互の認証を行う必要がないためオーバーヘッドがなく、また、証明書の通信データの内容の暗号化／復号のための通信路パス相互で矛盾を生じないという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の秘話通信方法が適用される通信システ

【図1】



12

ムの一実施例を示すブロック図である。

【図2】本発明の実施例に使用する記号とその意味の一例を示す図である。

【図3】本発明で使用する証明書の一を示す図である。

【図4】本発明による端末相互の認証手順を説明するための図である。

【図5】本発明による秘密鍵共有手順を説明するための図である。

【図6】本発明による新たな秘話通信要求が発生した場合の認証／秘密鍵共有手順を説明するための図である。

【符号の説明】

- 10 交換装置
- 20, 30 端末装置
- 40 証明機関
- 110 端末制御部
- 120 暗号化処理部
- 130 通信データ処理部

【図2】

記 号	意 味
Ti	端末Tiの識別名
Ri, Rkvi	端末Tiが発生する乱数
Ski	端末Tiのプライベート鍵
Pki	端末Tiのパブリック鍵
Sca	証明機関のプライベート鍵
Pca	証明機関のパブリック鍵
DEKs	通信データの内容の暗号化／復号鍵に使用する秘密鍵
IVs	通信データの内容の暗号化／復号のための初期値
$e[DEKs, IVs](p)$	平文pを鍵DEKs、初期値IVsで秘密鍵暗号方式により暗号化した暗号文
$d[DEKs, IVs](c)$	暗号文cを鍵DEKs、初期値IVsで秘密鍵暗号方式により復号した平文
$E[Ski](p)$	文pを鍵Skiで公開鍵暗号方式により暗号処理した暗号文
$E[Pki](E[Ski](p))$	暗号文 $E[Ski](p)$ を鍵Pkiで公開鍵暗号方式により復号処理した復号文
$H(p)$	文pを関数Hでハッシュした値
	結合
Ci	端末Tiの証明書

【図3】

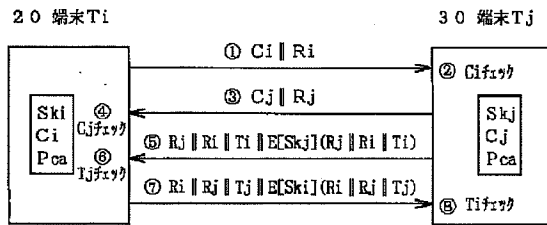
端末Tiの証明書Ci

CDL
Ti
Pki
$E[Sca](H(Ti    Pki))$



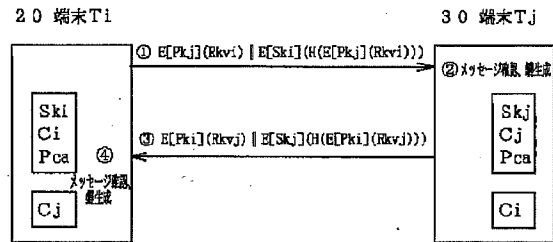
【図4】

## 端末相互の認証手順



【図5】

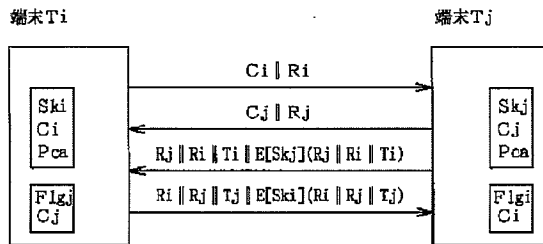
## 鍵共有手順



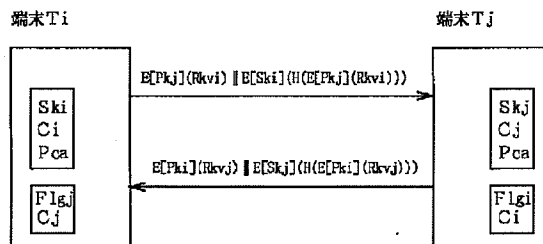
【図6】

## 端末相互の認証／鍵共有手順

(a)



(b)



フロントページの続き

(51) Int. Cl.<sup>6</sup>

H04L 9/32

識別記号

庁内整理番号

FI

H04L 9/00

技術表示箇所

601E

673B

675A

(72)発明者 青木 克彦

東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目14番5号

エヌティティエレクトロニクステクノロ

ジー株式会社内